

デングウイルス等媒介蚊の調査結果について

昨年、約70年ぶりにデング熱の国内感染が確認されたことに伴い、市では6月に、デング熱等の感染を未然に防ぐことを目的として、市内に生息するデングウイルス等媒介蚊のウイルス保有状況について定点調査を開始しました。

6月の調査結果は、全て陰性で、蚊のデングウイルス等の保有は確認されませんでした。今後10月までの間、毎月1回定点調査を実施し、結果を市ホームページに掲載いたします。

- 1 調査日
平成27年6月17日(水)から23日(火)まで
- 2 定点調査場所
相模原北公園(緑区)、淵野辺公園(中央区)及び相模大野中央公園(南区)
 - * 各公園とも2カ所を実施
 - * 7月以降、緑区については相模湖林間公園と相模原北公園を隔月交代で調査
- 3 調査項目
デングウイルス及びチクングニアウイルスの保有状況
- 4 調査方法
 - ・ 人^{おとり}囿法(8分間捕集)及びCDC型ライトトラップ(24時間捕集)により成虫蚊を捕集(7月以降の調査は人^{おとり}囿法により実施予定)
 - ・ 捕集された成虫蚊のうち、デングウイルス及びチクングニアウイルスを媒介するヒトスジシマカのメスについて、遺伝子検査を実施
- 5 調査結果
裏面のとおり

単位：匹

		相模原北公園	淵野辺公園	相模大野中央公園
ヒトスジシマカ(メス)		5	5	11
検査 結果	デングウイルス	陰性	陰性	陰性
	チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性
その他の蚊等		5	13	29
合計		10	18	40

【参考】

チクングニア熱について

- ・ チクングニア熱は、チクングニアウイルス感染により発症する感染症で、主に東南アジアなどで流行しています。
- ・ 国内での感染は確認されていませんが、デング熱同様、ヒトスジシマカにより媒介されます。
- ・ 発症すると発熱及び関節痛がよく見られ、筋肉痛、発疹、関節炎等が見られる場合もあります。症状は3～10日で消えますが、関節炎は数週間から数か月続くこともあります。
- ・ チクングニア熱に対する特異的な治療法がないため、対症療法のみとなります。現時点でワクチンはありません。
- ・ 予防法は、蚊との接触を避け、刺されないようにすることです。具体的には、なるべく肌を露出しないように長袖、長ズボンを着用し、裸足でのサンダル履きを避け、虫よけ剤等を使用して蚊を寄せつけないようにすることです。

捕集方法について

人^{おとり}囿法： 人に集まってくる蚊を捕虫網で8分間捕集する方法

CDC型ライトトラップ： ドライアイス及び豆電球により蚊を誘引し、ファンで網に捕集する方法

以 上

問合せ先
衛生研究所
直通電話 042(769)8348
担当 清原、鈴木